

2022年度 環境経営レポート



一般財団法人
山形県理化学分析センター

1. 環境経営方針
2. 組織の概要
3. 事業内容
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画に基づき実施した取り組み内容
6. 環境経営目標および環境経営計画の実績
7. 環境関連法規等の順守および評価、訴訟などの有無
8. 全体の評価と見直し



環 境 経 営 方 針

一般財団法人山形県理化学分析センターは、直面している環境のリスクを真摯に受け止め、その変化を的確にとらえて、人間をはじめとするあらゆる生物が、より安全で快適に生存できるように活動いたします。そのために、当センターの生業である環境調査、各種分析、各種検査、管理・監視業務などを通して地球環境の向上に貢献するとともに、業務に起因する環境負荷を削減するために下記について継続的に努力いたします。

活 動 方 針

1. 環境関連法規を順守します。
2. 資源の使用状況を監視し、最少となるように工夫します。
3. 業務の効率化を図り、時間の削減を行います。
4. 環境負荷の少ない資材や機器の調達を行います。
5. 多くの人々に環境教育などを通じて環境についての理解を求めるとともに、積極的に環境改善活動などに参加します。
6. 役職員全員で環境経営マネジメントシステムの理解を深め、これに取り組めます。

制 定 平成18年12月8日

改 訂 平成31年 4月 1日

一般財団法人山形県理化学分析センター
理事長 大泉 茂

2. 組織概要

(1) 事業所名及び代表者名

一般財団法人山形県理化学分析センター
理事長 大泉 茂

(2) 所在地

山形 〒990-2473 山形県山形市松栄一丁目6番68号
仙台 〒982-0003 宮城県仙台市太白区郡山字谷地田東14番19号

(3) 設立年月日

昭和47年3月28日（一般財団法人登記平成22年6月18日）

(4) 環境管理責任者

総務グループ 松本 義文 TEL023-645-5308

(5) 設立趣意

県衛生研究所はじめ県立山形工業試験場等公的機関でのみ行っていた各種公害の調査分析を補完するとともに、生活環境の汚染に係るより精密な分析能力を培い、さらに各種講習会等を開催して公害防止技術の習得及び公害防止意識の啓蒙を図り、もって公害の防止に資するため。

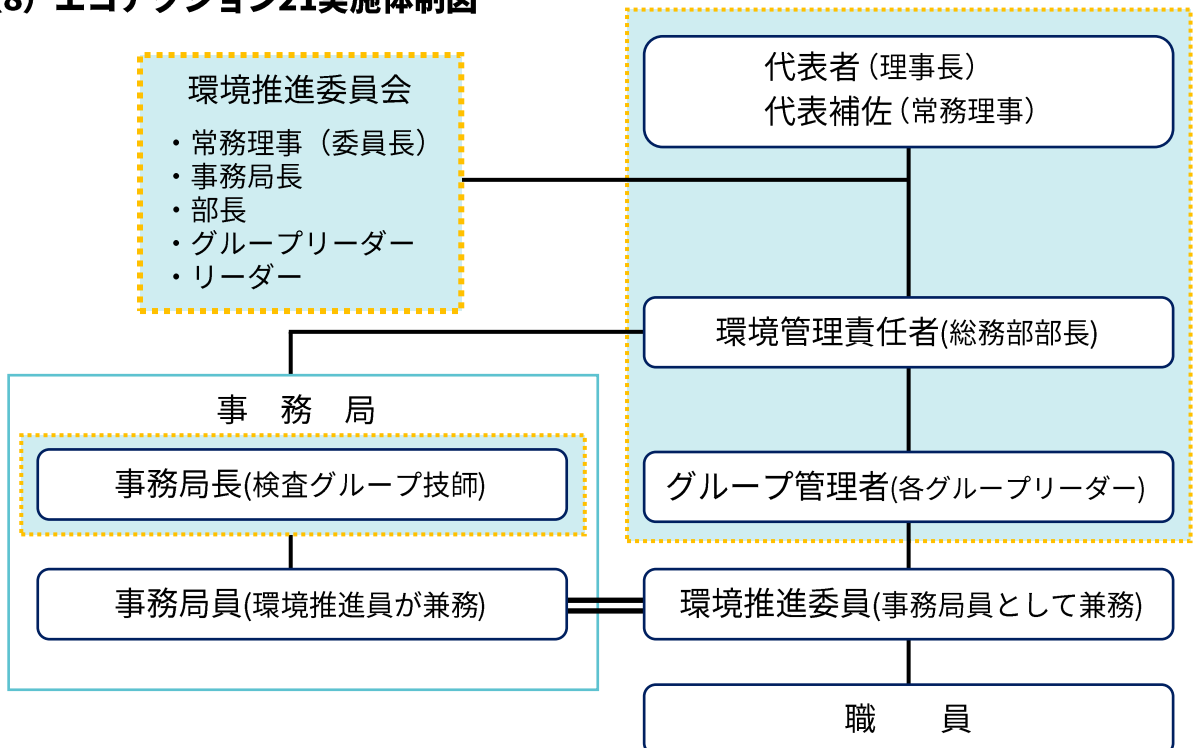
(6) 事業規模（令和5年3月31日現在）

基本財産 1億5,296万円
役職員数 54名（内、派遣2名）

(7) 対象範囲

全組織における環境、衛生の検査・分析及び調査業務

(8) エコアクション21実施体制図



3. 事業内容

飲料水検査

上水道、簡易専用水道、ミネラルウォーター類、井戸水、プール水、浴槽水など各種法令に基づいた水質検査を行っています。



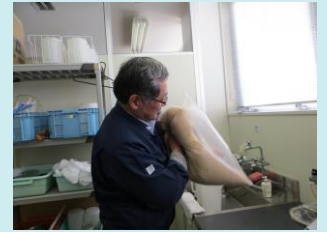
医薬品検査

医薬品用の主/副原料の理化学試験、微生物試験製剤の安定性試験、また高薬理活性物質の試験受け入れも行っていきます。



食品検査

輸入食品の製品検査、残留農薬検査、栄養成分、添加物の分析、異物検査などを行っています。



浄化槽検査

山形県内の浄化槽法定検査を行っています。



生活環境調査

大気質調査、騒音・振動・低周波測定、交通量調査、放射線量調査などをはじめとした調査を行っています。



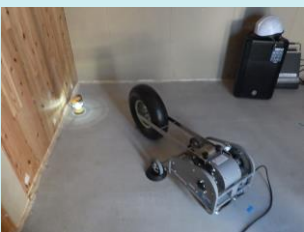
自然環境調査

動植物の調査や、生態系の上位に位置する猛禽類の調査も行っていきます。



住宅性能調査

住居における空気音遮断性能、床衝撃性能、室内静謐性能の測定、室内空気中化学物質の測定などを行っています。

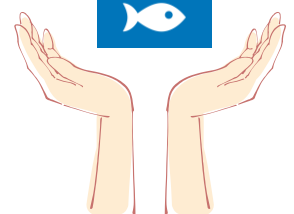


各種計量分析

河川、農業用水、工業用水などの水質分析、騒音・振動測定、悪臭の分析、作業環境測定などを行っています。



関連する主なSDGs



4. 環境経営目標

2022年度環境経営目標

	活動項目	活動目標	目標項目	目標数値
1	電力使用量の維持	維持	電力の使用量	213,674 kWh
2	都市ガス・LPG使用量の低減	低減	都市ガス使用量	29,085 m ³
			LPG使用量	11.39 kg
3	ガソリン・軽油の使用量の維持	維持	ガソリンの使用量	19,369 L
			軽油の使用量	5,019 L
4	二酸化炭素排出量の低減	低減	二酸化炭素排出量	総量290,498 kg-CO ₂
5	上水道使用量の削減	削減	上水道の使用量	3,027 m ³
6	一般廃棄物排出量の削減	リサイクル率の維持	一般廃棄物の排出量	リサイクル率82%以上
7	産業廃棄物排出量の削減	リサイクル率の向上	産業廃棄物の排出量	リサイクル率97%以上
8	環境保全活動の推進	各個人のポイント増加	全職員が積極的に環境保全活動に取り組む（ポイント獲得制）	1,500pt 以上
9	浄化槽法定検査実施率の向上	浄化槽法定検査実施率の向上	浄化槽法定検査の年間検査実施率を向上させる	65% 以上
10	5S運動の実施	作業の効率化	5S運動を組織的に実施	作業効率化
11	化学物質の適正な管理	有害化学物質PR-TR対象物質と毒劇物の購入量(もしくは使用量)の把握	有害化学物質の使用量の把握	継続的監視
12	環境教育の実施	環境教育の実施	学校及び市民団体などを対象に、環境教育を実施	10回実施

中長期目標

	活動項目	長期目標	目標項目	単位	目標数値	2021年度目標	2022年度目標	2023年度目標
1	電力使用量の維持	消費率を出来るだけ抑える	電力の使用量	kWh	213,674	213,674	213,674	213,674
				kWh				
2	都市ガス・LPG使用量の低減	伸び率を5%以下にする	都市ガス使用量	m ³	26,381	27,770	29,085	30,539
			LPG使用量	kg	10.35	10.87	11.39	11.90
3	ガソリン・軽油の使用量の維持	消費率を出来るだけ抑える	ガソリンの使用量	L	19,369	19,369	19,369	19,369
			軽油の使用量	L	5,019	5,019	5,019	5,019
4	二酸化炭素排出量の維持	—	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	265,304	278,569	290,498	307,123
5	上水道使用量の維持	基準年度から毎年1%程度削減する	上水道の使用量	m ³	3,440	3,062	3,027	2,993
6	一般廃棄物排出量の削減	リサイクル率を毎年82%以上とする	一般廃棄物の排出量	%	82	リサイクル率82%以上	リサイクル率82%以上	リサイクル率82%以上
7	産業廃棄物排出量の削減	リサイクル率を毎年97%以上とする	産業廃棄物の排出量	%	97	リサイクル率97%以上	リサイクル率97%以上	リサイクル率97%以上
8	環境保全活動の推進	年間1,500ポイント以上獲得する	全職員が積極的に環境保全活動に取り組む（ポイント獲得制）	—	—	1,500Pt 以上	1,500Pt 以上	1,500Pt 以上
9	浄化槽法定検査実施率の維持	年間申し込み数の完全消化（積み残し0）、実施率の向上に努める	浄化槽法定検査の年間検査実施率を向上させる	%	55	64%以上	65%以上	66%以上
10	5S運動の実施	毎年重点目標を設定し実施していく	5S運動を組織的に実施	—	—	作業の効率化	作業の効率化	作業の効率化
11	化学物質の適正な管理	上位3品目の監視を継続すると共に、試薬集計システムの機能向上を目指す	有害化学物質の使用量の把握	—	“該当せず”を確認 継続的監視 1,000kg以下	継続的監視 1,000kg以下	継続的監視 1,000kg以下	継続的監視 1,000kg以下
12	環境教育の実施	毎年10回以上環境教育を実施する	学校及び市民団体などを対象に、環境教育を実施	回	10	10回実施	10回実施	10回実施

※電力の二酸化炭素排出数は、0.528kg-CO₂/kWh(東北電力 平成31年度)、0.711kg-CO₂/kWh(オリックス 平成31年度)を使用

5. 環境経営計画に基づき実施した取り組み内容

	活動項目	活動内容	4月 ～ 6月	7月 ～ 9月	10月 ～ 12月	1月 ～ 3月
1	電力使用量の維持	・昼休みの消灯	○	○	○	○
		・未使用時の事務機器のスイッチオフ	○	○	○	○
		・自然光の利用	○	○	○	○
		・使用していないフラン器等の電源オフ	○	○	○	○
2	都市ガス使用量の低減	・適正温度に設定	○	○	○	○
		・自然通気の促進	○	○	○	○
3	ガソリン使用量の維持	・アイドリングの短縮	○	○	○	○
		・経済速度での走行	○	○	○	○
		・無駄な荷物は積まない	○	○	○	○
		・エアコンの使用の削減	○	○	○	○
4	二酸化炭素排出量の低減	・電力使用量の抑制	○	○	○	○
		・都市ガス使用量の抑制	○	○	○	○
		・ガソリン使用量の抑制	○	○	○	○
5	上水道使用量の削減	・冷却水、洗浄水、リンス水等の適量使用	○	○	○	○
		・漏水の監視	○	○	○	○
6	一般廃棄物排出量の削減	・分類の徹底（排出量の全量把握）	○	○	○	○
		・食品ゴミのリサイクル	○	○	○	○
		・紙類のリサイクル	○	○	○	○
		・ビン・缶のリサイクル	○	○	○	○
7	産業廃棄物排出量の削減	・試薬ビンを廃棄せずに回収・リサイクル化	○	○	○	○
		・プラスチックの回収・リサイクル化	○	○	○	○
		・金属類のリサイクル化（排出量の全量把握）	○	○	○	○
8	環境保全活動の推進	・ポイントを1500点以上獲得する	-	-	-	-
9	浄化槽法定検査実施率の向上	・検査実施率の向上（対前年度1%向上）	○	○	○	○
		・実施率64%以上	○	○	○	○
		・申込数の完全消化	○	○	○	○
10	5S運動の実施	・5S運動の実施	○	○	○	○
11	化学物質の適正な管理	・PR-TR制度対象物質の購入量の把握	○	○	○	○
		・使用量の多い3種類の化学物質について監視を続ける	○	○	○	○
12	環境教育の実施	・学校及び市民団体等を対象	×	○	×	×
		・学会発表	×	×	×	×
		・業界団体での講演	×	×	×	×
		・講習会への講師派遣	○	○	○	○

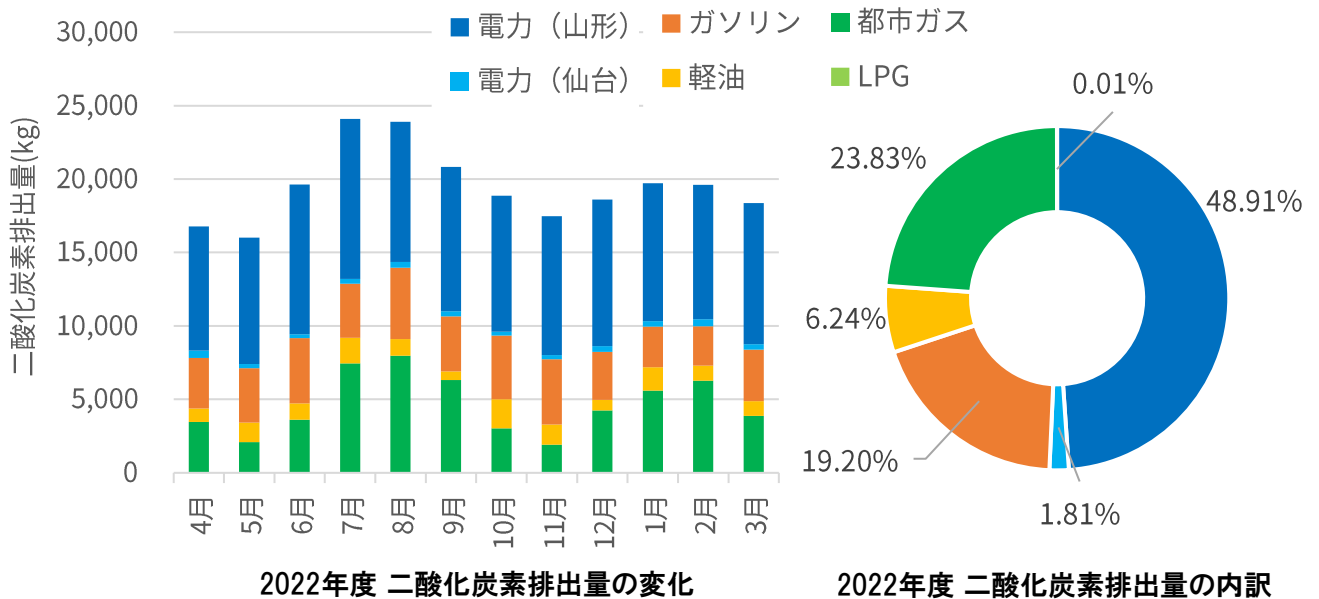
○：実施 ×：実施できず

6. 環境経営目標および環境経営計画の実績

二酸化炭素排出量

活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
二酸化炭素排出量の低減	290,498 kgCO ₂	233,862 kgCO ₂	80.5%	達成

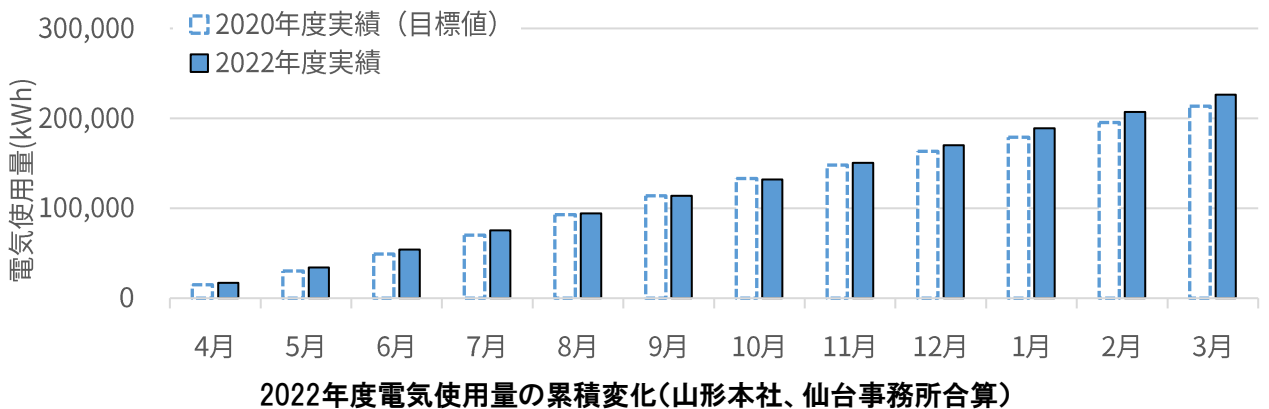
※電力の二酸化炭素排出計数は、0.521 kg-CO₂/kWh(東北電力 2022年度)、0.812kg-CO₂/kWh(オリックス 2022年度)を使用



2022年度の二酸化炭素排出量は目標値と比べて約80.5%となっており、目標を達成していました。ただし排出量の低減要因は、電力会社の二酸化炭素排出係数の低下と考えられます。引き続き排出量の削減対策として、使用機器類などの稼働状況や消費電力の見える化による機器類の効率的な運用や、業務車両としてハイブリッド車の導入なども案として検討していきます。

電力

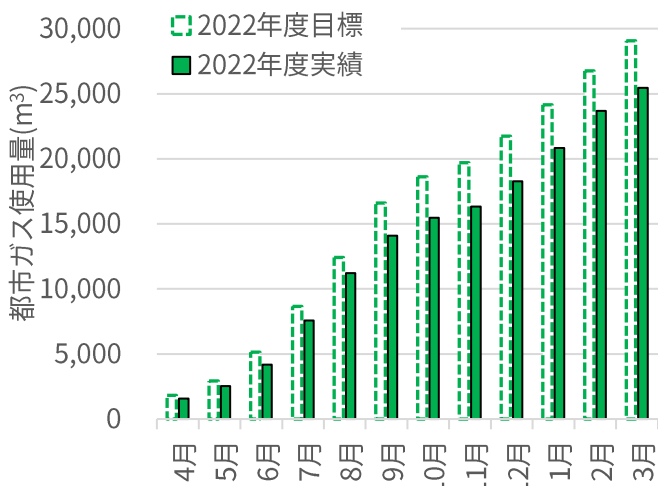
活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
電力使用量の維持	213,674 kWh	226,294 kWh	5.9% 超過	未達成



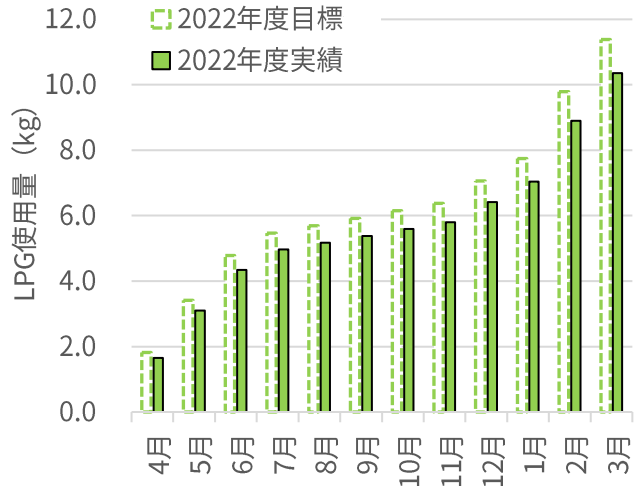
2022年度の電気使用量に関しては、2020年度(目標値)と比べて約5.9%超過していました。対策の一つとして証明のLED化が実施されておりますが、その年間使用量は全体の1/40程度です。今後は分析機器それぞれの消費電力および稼働時間を調査し、効率的な運用を考えます。

ガス

活動目標	区分	目標値	実績値	達成状況	評価
ガス使用量の低減	都市ガス	29,085 m ³	25,448 m ³	87.5%	達成
	LPG	11.39 kg	10.56 kg	92.7%	達成



2022年度ガス(都市ガス)使用量の累積変化

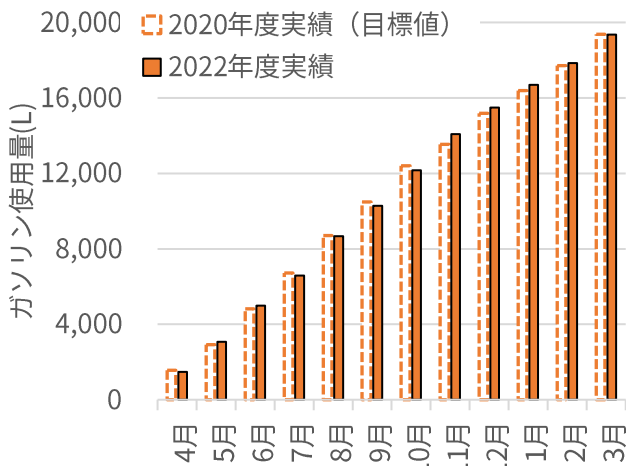


2022年度ガス(LPG)使用量の累積変化

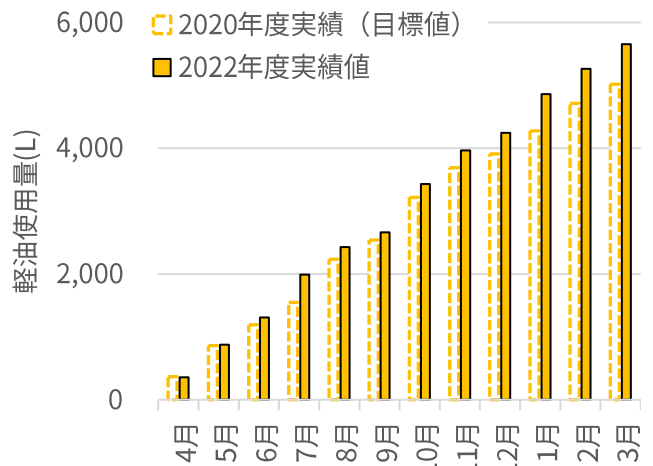
ガス使用量に関しては、2022年度目標を達成していました。全体のガス使用量の約90%以上がガスヒートポンプ（GHP）エアコンの使用によるもので、特に夏季および冬季に使用量が増加しています。また老朽化していることから機器の入れ替えも検討していきます。

ガソリン・軽油

活動目標	区分	目標値	実績値	達成状況	評価
ガソリン・軽油の使用量の維持	ガソリン	19,369 L	19,353 L	99.9%	達成
	軽油	5,019 L	5,655 L	12.7%超過	未達成



2022年度ガソリン(都市ガス)使用量の累積変化

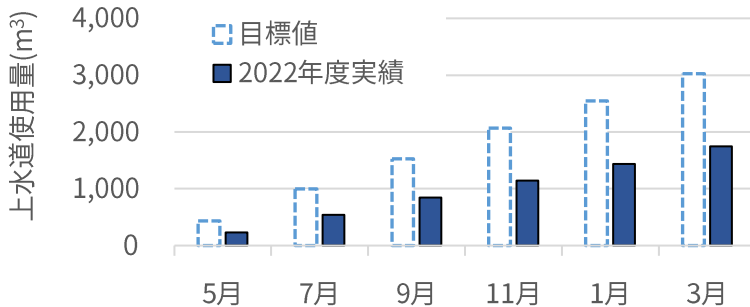


2022年度ガソリン(LPG)使用量の累積変化

軽油使用量に関しては、2020年度（目標値）と比べて約12.7%超過していました。主に仙台事務所のハイエースに使用されており、宮城県内外での環境調査業務が増加してきていることが軽油使用量増加の一因と考えられます。2023年度の8月には軽自動車1台を仙台事務所に導入予定であることから、8月以降は特にガソリン・軽油の使用量の動向に注視したいと思います。

上水道

活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
上水道使用量の低減	3,027 m ³	1,749 m ³	57.8%	達成



2022年度水道使用量の累積変化



※1.) 水道使用量に関しては2か月に1回集計

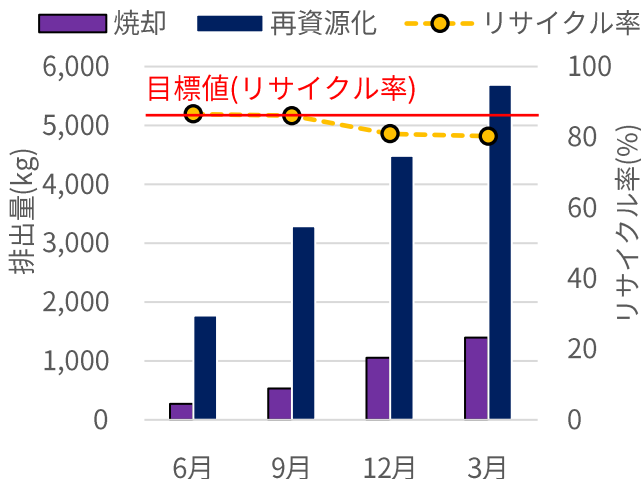
上水道使用量が減少した要因として、事務所工事のために試験所を10月まで借りて業務の一部を行っており、その分の使用量が含まれていないためと考えられました。しかしながら11月以降も顕著な増加がみられないことから、次年度は目標値の変更が必要と思われます。

一般廃棄物物・産業廃棄物

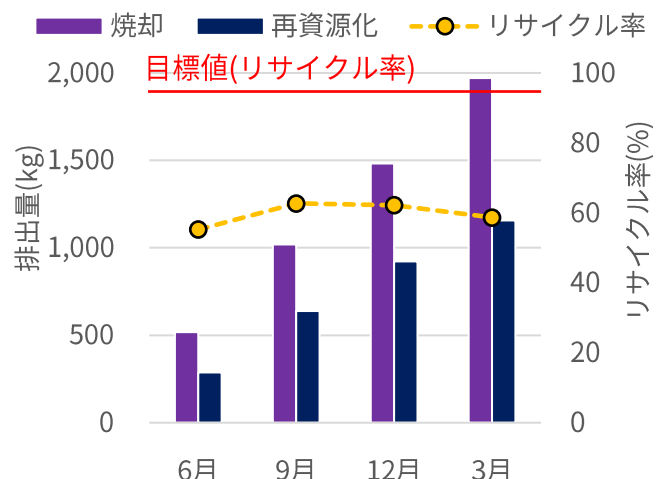
活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
一般廃棄物排出量の削減 (リサイクル率※2) の維持	82.0%	80.3%	—	未達成

活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
産業廃棄物排出量の削減 (リサイクル率※2) の向上	97.0%	58.6%	—	未達成

※2) リサイクル率 (再資源化量) / (総排出量)



2022年度一般廃棄物排出量の累積変化



2022年度産業廃棄物排出量の累積変化

※3) 一般廃棄物および産業廃棄物に関しては四半期ごとに集計

一般廃棄物に関しては落葉による焼却ごみの増加や、ガラス類の処理方法が埋立処理に変更されたためリサイクル率が低下したものと考えられます。また産業廃棄物に関しては目標値を大きく下回りました。以上のことを踏まえて、目標値の見直しが必要と考えられます。

環境保全活動の推進及び5 S運動の実施

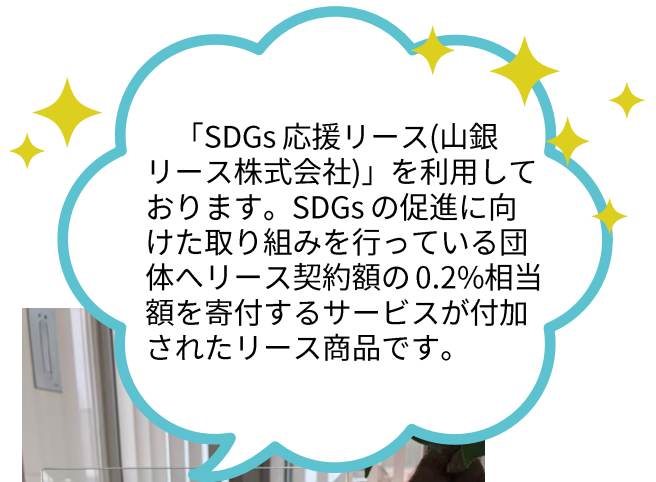
活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
全職員が積極的に環境保全活動・5 S活動に取り組む (ポイント獲得制)	1,500 pt 以上	-	-	-



古着deワクチンへの寄付



社外清掃の様子



SDGs 応援リースの利用

これからも楽しく
活動に取り組んで
まいります！



ポイント獲得制度の見直しのため、評価は実施しないこととしました。2022年度は会社周りの清掃や掲示物の見直し、「古着deワクチン」への寄付などを行いました。

新ポイント制度は、職員同士がお互いの環境活動・5S活動に対し評価し合うものです。作業の効率化だけでなく、社員のモチベーションの向上にも繋がるものと考え実施を進めています。

浄化槽法定検査

活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
浄化槽法定検査実施率の維持	65%以上	70.3%	-	達成

今後も検査実施率の向上に努め、年間申込数の完全消化（積み残し0）を目指します。

化学物質

活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
化学物質の適正な管理 (PR-TR制度対象物質の使用量)	継続的監視 1,000 kg以下	578.2 kg	-	達成

対象物質については使用量を記録簿に記載し、使用状況を確認しております。特に使用量の多い上位3品目（アセトニトリル、ノルマルヘキサン、N,N-ジメチルホルムアミド等）については重点的に監視してまいります。

環境教育

活動目標	目標値	実績値	達成状況	評価
環境教育の実施	10回実施	12回	-	達成



毒物劇物取扱者関係講習講師派遣



美しい地球環境講座告知ポスター
(NPO法人環境生態工学研究所様作成)

毒物劇物取扱者関係講習、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習などの講師を派遣しております。またNPO法人環境生態工学研究所様と共同主催で「美しい地球環境講座」をオンラインで定期的開催しております。学識経験者の方を講師としてお招きし、当職員だけでなく、外部にも環境教育の場を提供しております。

■ その他の活動

○ 環境ボランティアへの参加



砂団子をマトにむかって投げ入れる観光客



松島湾の藻場の生き物について説明する職員

NPO法人環境生態工学研究所（E-TEC）が実施している「松島湾藻場再生活動イベント」にスタッフとして参加いたしました。東日本大震災で消失したアマモ場の再生を目指す活動の1つです。震災後に泥場となった底質をアマモが生育しやすい砂泥環境とするため、福浦橋（松島町）を渡る観光客に『砂団子』を投げ入れてもらうというものです。観光客への活動概要の説明や、松島湾の藻場の生物について紹介しました。



苗を植える穴を空ける職員



アキグミの苗を植える職員

NPO法人環境生態工学研究所（E-TEC）が実施している旧松尾鉱山跡地（岩手県）における育樹活動に参加いたしました。今年で8年目の参加となります。本活動は約15年ほど前からはじまっており、当初に植樹した苗は4mほどにまで成長し、小さな森を作っています。



7. 環境関連法規等の順守および評価、訴訟等の有無

■ 適用となる環境関連法規等とその遵守状況

○ 水質汚濁防止法、下水道法

水質を守る事のお手伝いが本業です。当センターから排出される、下水道排水や有害排水処理水を毎月定期的に測定し、監視しております。

○ 大気汚染防止法、悪臭防止法

試験検査室のドラフトチャンバー等は、スクラバを使用し、適正な管理運用をしております。スクラバ排水も定期的に測定を行って確認しております。

○ 毒物劇物取締法、化学物質排出把握管理促進法

毒劇物の購入量及び使用量を把握し、管理を行っています。使用量が最も多い化学物質についても届出を要する排出量を下回っていることを確認しております。

○ 消防法

危険物の貯蔵量に関しては、消防法上の指定数量を下回っていることを確認しております。

○ 放射性同位元素等障害防止法

放射性同位元素についても密封線源になりますが適正に管理しております。

○ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

ごみ減量化、再資源化に取組み、マニフェストの管理状況等も含め適切な管理を行っております。

■ 法令違反・訴訟等の有無

これら環境関連法規への違反事例、訴訟等は環境経営マネジメントシステムを導入以降ありません。当センターでは環境経営活動を行うにあたり、該当する環境関連法規ごとに規程と手順書を整備し、自主管理を適正に行っております。

8. 全体の評価と見直し

■ 運営管理者のコメント

- ① 2024年度から環境経営方針は、SDGsを意識した方針に見直しができるよう、2023年度中に改定案を検討してください。
- ② 化石燃料使用量が車両台数の増加や業務エリアの拡大の影響により、目標を超過することは今後も考えられます。以前に行っていた燃費を目標に据えるよう検討してみてください。
- ③ グリーン電力などのエネルギー源の転換を検討する時期に来ています。経営への影響に配慮しつつ、少しずつでも取り入れていくよう検討してください。
- ④ 有害化学物質は、過去3年間の使用量を勘案し、当法人の業務に大きな変化がなければ、「アセトニトリル」の監視だけで十分と思われるので、監視対象を検討してください。



対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日

発行日 2023年10月1日

〒990-2473 山形県山形市松栄一丁目6番68号
HP <http://www.y-rikagaku.jp/>